スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

静岡県伊豆市

自 治 体 名 ： 静岡県伊豆市
担 当 課 名 ： 教育部社会教育課
電 話 番 号 ： 0558-83-5477

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	363.97k㎡
人口	27,086人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	485人
部活動数 （運動部活動のみ）	17部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

現在の運動部活動は、生徒・教員数の減少、教員の多忙化、生徒・保護者のニーズの多様化等の様々な課題がある。これらに対し、部活動の活動日および時間短縮等規模を縮小し教員の負担軽減を図っている。【平日3日、休日4時間まで、終了時刻：16:30】

この状況に対し、令和7年度に地域スポーツ団体に中学部活動の地域展開受け入れ調査を実施したが、週末の練習試合や大会引率等の対応は困難であり、受け入れ可能団体はない状態である。

今後生徒の活動の場は、①部活動（今後更に縮小が見込まれる）・②スポーツクラブ（競技力向上が目的）・③帰宅し自由時間（塾や家庭学習等）の3つと想定され、①に希望する種目がない生徒や②に行きたくても諸事情でいけない生徒の活動の場がなくなることが懸念されることから、対策が必要である。

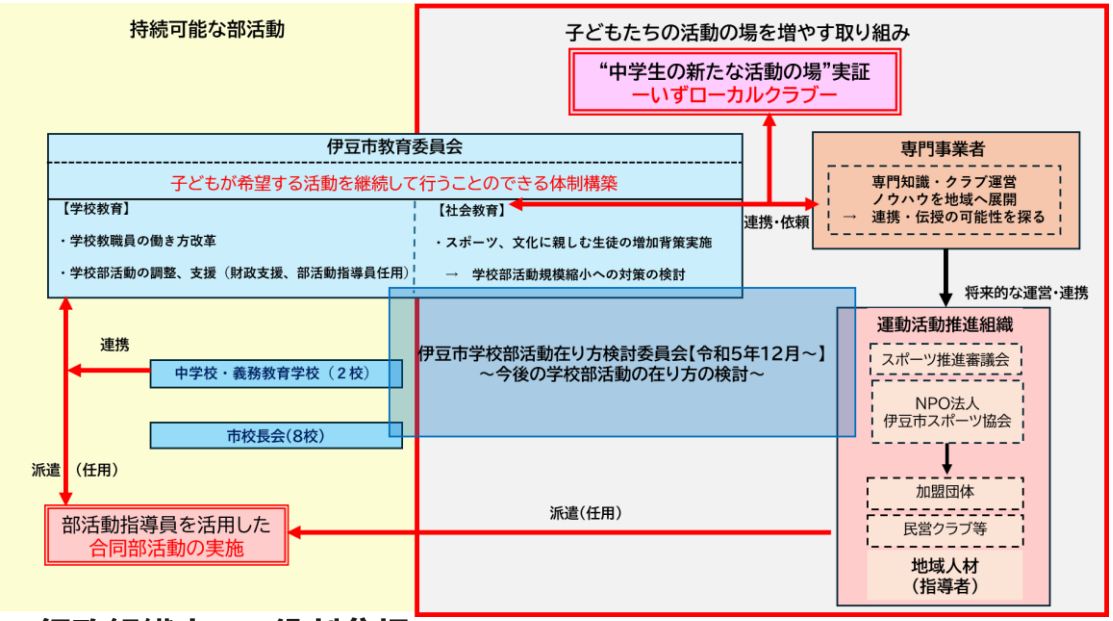
スポーツ団体調査【令和7年7月】
スポーツ協会（社会人団体　17団体／21競技団体加盟　〇回答数　90%）
㋐休日および平日の学校部活動の指導者派遣（部活動指導員等）への支援は可能か？
→「支援可能」は、休日21%・平日10%
（理由）・平日や土曜日は仕事で支援困難　・チームの指導や引率等の重責を担うのは負担
㋑今後、中学生の受け入れは可能か？
→「受入可」は52%
（課題）・大人と中学生が一緒に練習するのに配慮が必要
スポーツ少年団（小学生～高校生団体　25団体加盟　〇回答数　100%　※聴き取り含む）
㋐休日および平日の学校部活動の指導者派遣（部活動指導員等）への支援は可能か？
→「支援可能」は、休日・平日ともに約32%
（理由）・平日や土曜日は仕事で支援困難　・都合の良い時のみの指導に検討の余地あり
㋑今後、中学生の受け入れは可能か？
→「受入可」は88%
（課題）・ボールやコート等異なる規格への対応　・試合引率や中学生チームの運営は困難

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

【学校教育課】

- 運動部活動の地域移行に向けての検討（部活動指導員の導入等）

【社会教育課】

- 子ども達が希望する活動の場の持続可能な体制構築に向けた検討、試行

◉首長部局

【企画財政課】

- 予算措置

年間の事業スケジュール

令和7年3月	検討委員会に提案、協議
令和7年4月	対象校生徒・保護者・教員へ説明 生徒へアンケート実施
令和7年5月	アンケート集計 →クラブ運営受託者の検討・決定
令和7年6月	検討委員会に進捗報告
令和7年7月	対象校に募集チラシ配布・告知
令和7年8月	参加予定者決定、準備
令和7年9月～ 12月	クラブ試行　計12回 （2校　水曜日・日曜日）
令和7年12月	参加者アンケート実施
令和8年1月	全校生徒アンケート実施、集計 次年度事業の検討

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校（義務教育学校1校含む）	実施した地域クラブ総数	1クラブ
クラブ数	部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		いずローカルクラブ
全体の指導者数	1人	全体の運営スタッフ数	2人

②各地域クラブ活動に関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
いずローカルクラブ	専門事業者	ネット型スポーツ	・平日8回 ・休日4回	月曜 15:00～16:30 木曜 16:00～17:00 日曜 8:00～10:00	中学生等	令和7年 9～12月	学校施設 (体育館)	1人	なし	なし	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 参観日やPTA総会等、保護者が集まるタイミングでの事業説明、告知

2.実証内容と成果

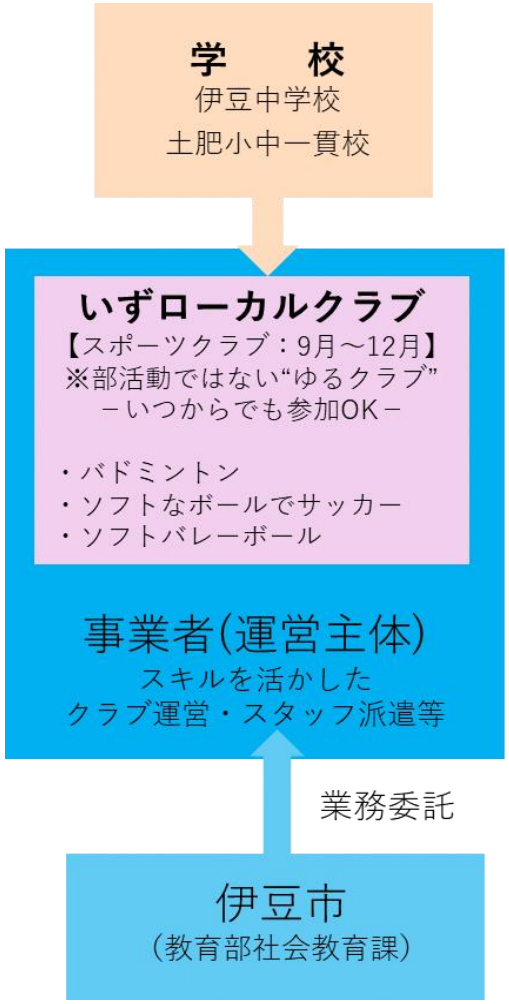
スポーツ庁

主な取組例

●いずローカルクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ネット型スポーツ（バドミントン、ソフトなボールでサッカー、ソフトバレーボール）
運営団体名	いずローカルクラブ
期間と日数	令和7年9～12月のうち、月・木・日曜日　計12回
指導者の主な属性	専門事業者
活動場所	学校施設（体育館）
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者の送迎等
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：30円／回

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

● 自治体（統括責任者）

【事務局（1名）】

- 参加者出欠確認、緊急時対応等
- コーディネーター役

  専属コーディネーターを設置していないため、他業務と兼務

● 指導者

【専門事業者（1名）】

- 指導者…クラブでの指導

● 事業者（運営主体）

- クラブ運営
- 指導者の確保、派遣等
- 報酬等の支払い業務
- 行政への報告等

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○ 市（社会教育課）が新たな地域スポーツクラブを創設・試行し、生徒に希望する活動の場へのニーズや満足度を調査することで、持続可能なクラブ活動へ繋げていく手法を検証する。

○ クラブは、運動部活動の活動がない休日および平日に、生徒の事前アンケートで希望の多いスポーツクラブ（既存の運動部活動競技以外の種目）を試行する。

○ 運営は、これまで当市のスポーツ事業に関わり子ども達の体力やスポーツへの関心度等を把握している事業者に運営を委託し、生徒が継続意欲を高める活動のプランニング・実施を行う。また、学校体育施設を活用し放課後そのまま参加可能な形で行う。

取組の成果

○ 市（社会教育課）がコーディネートし、運営業務受託者・対象校・検討委員会等の各団体と連絡調整し円滑に行うことができた。

○ 部活のない日に部活にない種目を行ったことで、今後の放課後活動の新たな選択肢として検討し得る場として提案・試行できた。

○ 民間事業者に運営業務を委託したことで、参加者の満足度の高いクラブ内容となった。

今後の取組における課題

① 持続可能な体制の構築・行政に代わる運営主体の検討・選定

② 活動経費の確保（受益者負担、施設利用料減免等）
→自立したクラブ活動を目指す

③ 部活動の将来像（段階的な地域展開による最終形の見通し）
→現在は「令和13年度までに休日部活動を地域展開」が目標

④ 指導者確保

課題への対応方針

① 現時点では、行政主導の運営となっているが、今後は運営を担う団体にメリットのある体制構築の検討（クラブ運営、関連団体との連絡調整等）

② 持続可能なクラブ運営に向けたマニュアルづくり

③ 現行部活動の状況調査・分析、ニーズ調査
各人数…部員、顧問、部活動指導員等の現状と推移を予測し、今後の在り方を協議
生徒に貸与している1人1台端末を利用して、ニーズ調査を行い、活動内容へ反映

④ 活動ニーズに対応した指導者とのマッチング及び採用条件等の検討

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

○ 地域の人材であるスポーツ協会会員・スポーツ少年団指導者数は減少が続き、若年層から切れ目なく活動し、指導者や愛好者として地域のスポーツ活動を推進する人数も減少しており、指導者の確保も難しい現状である。
今年度は、生徒が希望する活動が「ネット型スポーツ」となったが、各種スポーツ団体に依頼可能な団体がなかったこと・新たなクラブの立ち上げ・運営であったため、行政が地域の専門事業者に依頼し、スキルのある指導者の派遣および運営を委託し行った。

取組の成果

○ 参加者のうち17人から回答いただいたアンケートの結果、各月異なる種目に対する満足度については、概ね全員が「大変満足」「満足」と回答し満足度の高い結果となった。
○ 講師1人が指導に当たり、毎回参加人数やメニューが異なる状況下においても参加者のスキル・性格等を活動序盤で把握、柔軟に対応し、参加者全員がスポーツメニューを楽しむ“ゆる活”の場を提供できた。
○ 当クラブは放課後に活動し、教員の負担を増やすことなく子ども達の活動の場を提供できた。

今後の取組における課題

① 参加者のニーズに対応できる指導者の確保
② 様々な状況に対応できる一定以上のスキルを持った指導者の確保
③ 活動時に必要な備品の調達
④ 準備・片付け等の作業を行うマンパワー

課題への対応方針

① 人材リストの作成、継続した人材発掘・マッチング活動
→リスト作成・周知およびマッチング活動を行う人材や窓口の検討
② 県・国の支援メニューの積極的な活用

2．クラブの満足度は？

メニュー		大変満足	満足	不満	大変不満	不参加	合計
スポーツ	ミニテニス	6	4	0	0	1	11
	ソフトバレー	4	3	0	0	2	9
	ソフトなサッカー	4	1	1	0	3	9
	バドミントン	10	2	0	0	4	16
文化	生成AI	2	0	0	0	1	3
	eスポーツ	0	0	0	0	3	3
	プログラミング	3	1	0	0	0	4

【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○ モデル校となる中学校をはじめ、学校と運動部活動の調整を行う学校教育課、新たなクラブ活動を運営する事業者、地域文化団体との連絡調整を行うスポーツ協会等に対し、様々な活動の場への支援・連携を仰ぎながら、子ども達が希望する活動を維持する体制構築に向けて試行できた。

取組の成果

○ 民間事業者が講師を務める点・新規クラブとして学校活動外で行う点等、従来の集団（クラス・部活動の部員）とは異なるメンバーと新たな活動ができる場として案内したことで、興味を持ってくれた生徒・保護者の理解を得られ参加に繋がった。

1、参加のきっかけ、理由を教えてください（複数選択可）

ア　おもしろそうだったから　18人(60%)
イ　友達から誘われたから　3人(10%)
ウ　親に勧められたから　3人(10%)
エ　部活とは違う競技ができそうだったから　3人(10%)
オ　新しいことを体験できそうだったから　2人(7%)
カ　その他（昨年も参加したから）1人(3%)

【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

今後の取組における課題

① クラブの概要・内容を上手に伝えきれず、「何をする場なのかわからない」「いずローカルクラブの存在を知らなかった」という生徒・保護者の声への対応。
② 持続可能なクラブ運営に向けた体制構築
③ 生徒の希望する活動内容の把握
④ 生徒の希望する活動の指導者の確保

課題への対応方針

① 「部活動体験会」や「参観日・PTA総会」等での体験会の実施
② 運営主体の検討・選定
→各関係団体と連携可能な団体への提案、協議
③ 生徒へのいずローカルクラブの活動に関するニーズ調査の実施
→ 生徒に貸与している1人1台端末にてアンケート調査を実施
回答内容をクラブ運営に反映する
④ 活動ニーズに対応した指導者とのマッチング

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

運動部活動の将来のモデルケースとして新たな地域文化クラブの創設・試行を行い、子ども達が希望する活動の場の選択肢を増やすための検証を行った。

取組の成果

参加人数	67人（延べ）	指導者数	3人（延べ）
属性	放課後活動の充実を図る行政主導の地域クラブ（新たな種目の活動を創設）		
具体的な内容	市（行政）が新たな地域スポーツクラブを創設・試行する。生徒が希望する活動をアンケート調査し持続可能なクラブ活動へ繋げていく手法を検証した。対象は中学校1校・義務教育学校1校とし、部活動がない平日および休日に、希望の多い文化クラブ（既存の運動部活動以外の活動）を試行した。 クラブの運営には、これまで当市のスポーツ推進事業に関わり子ども達のスポーツコンテンツへの関心度等を把握している事業者に運営を委託し、充実したメニューを行った。また、学校体育施設を活用し生徒が通いやすい活動の場を提供した。		
子どもの声	● もっと他の競技もしてみたかった ● 部活動とは違う種目ができてとても良い経験でした ● 苦手な種目でも楽しくできました ● コーチがおもしろかった		
関係者の声	● いい試みだと思うが参加者が少なく残念だった。来年はもっと人数が増えるとにぎやかで楽しそうです ● 新しいクラブで、内容がわからず参加に至らなかった生徒がいたのでは… ● 生徒のニーズの高いものを行うのも良いが、少数のニーズにも対応できるともっと選択肢が広がると感じた ● 指導者リスト・活動したいグループの集約・マッチングをする運営団体を創ってほしい		
運営経費	• クラブ運営業務委託費 • 参加者保険料		

今後の取組における課題

① 子ども達のニーズを把握する窓口、機会づくり
② 子ども達の希望する活動の継続的な確保→人材、会場、財源

課題への対応方針

① 各機関との連携→学校、行政、地域団体等子どもに近い所から聴取
② 人材リスト作成、学校施設の活用、受益者負担＋県・国の支援

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

〇経費は市で負担し参加料は無料とした**（市で全額負担）**

取組の成果

〇参加料が無料だったため、参加した方もいた可能性がある
（参加料についての調査は実施していない）

今後の取組における課題

〇「お金を払ってでも参加したい」クラブの体制づくり
→一定のスキルを持つ指導者の確保
→安心して子どもが参加でき、保護者が参加を勧められる体制づくり

課題への対応方針

〇「お金を払ってでも参加したい」クラブの体制づくり
→人材バンクの作成、常時募集・登録できる窓口の検討
→運営主体の検討・選定

●収入

項目	費用	割合
地域クラブ活動費（国・県）	258,500	66%
事務局運営費（市費）	130,000	34%
受益者負担等	0	0%
合計	388,500	—

収支バランス

〇 収入：市費および国・県の委託金で賄い、受益者負担はない

〇 支出：スポーツクラブ実施に係る支出の高い割合を占めた謝金・旅費
→土肥小中一貫校等、遠方への派遣があった

〇 今後は、実施する活動内容・実施に係る経費等を試算し、一定の受益者負担を求めていく必要がある。

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	258,500	66%
諸謝金（指導者）	63,800	16%
旅費	90,382	23%
消耗品費	16,000	4%
印刷製本費	35,000	9%
レンタル料	15,730	4%
雑役務	0	–
生徒保険料	0	–
指導者保険料	0	–
消費税相当額	23,500	6%
一般管理費	14,088	4%
事務局運営費	130,000	34%
謝金	89,000	23%
旅費	33,800	9%
イベント開催費	0	—
保険料	7,200	2%
人件費	0	—
交通費	0	—
印刷製本費	0	—
消耗品費	0	—
備品購入	0	—
通信運搬費	0	—
修繕料	0	—
振込手数料	0	—
一般管理費	0	—
消費税相当額	0	—
合計	388,500	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

○ 今年度は初回の試みであり行政主体で参加者のニーズや満足度を検証するため試行した事業であることから、受益者負担なしで行った。

○ 仮に、今回のクラブ活動を受益者負担で行った場合

① 運営経費　約260,000円
② 参加者数　67人（令和7年実績　延べ人数）
→②／①≒　3,880円／人／回　現状のまま継続実施する参加費としては決して安価ではない。

☆ 民間事業者のノウハウを参考に、充実しつつも安価で持続可能なクラブ活動への体制構築に向けて協議していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

○当市は市域が広く、登下校はバスを利用する生徒が多い。部活動や新たな場へ参加し帰宅するためのバス路線は限られた本数であることから、子ども達が放課後最も参加しやすい場所（モデル校の体育館）を設定し、今後の事業の継続性・内容の充実を図ることができた。

今後の取組における課題

○自活クラブ化した場合の施設の鍵開閉・借用
→現施設の鍵は学校で保管しているため、鍵の貸し借りが必要

課題への対応方針

○学校とクラブの調整　外部団体への鍵の貸与方法について検討・調整
○学校施設の防犯対策等の検討
学校の施設立入可能エリアの設定、防犯カメラの設置、鍵改修の必要性の検討
（立入可能エリアの可視化、防犯カメラの設置、ナンバーロック、電子キーの導入等が必要か検討する）

取組の成果

会場	伊豆中学校								土肥小中一貫校			
日	9/1(月)	9/14(日)	9/29(月)	10/6(月)	10/27(月)	11/10(月)	11/16(日)	12/8(月)	9/4(木)	10/12(日)	11/6(木)	12/14(日)
スポーツ【在籍】 ・伊豆中：8人 ・土肥小中一貫：7人	ミニテニス	ソフトサッカー	ソフトバレー	バドミントン	ミニテニス	ソフトサッカー	ソフトバレー	バドミントン	ミニテニス	ソフトサッカー4	ソフトバレー	バドミントン
参加人数	2年男(4) 1年男(1) **5人**	2年男(**2**)	2年男(4) 1年男(1) **5人**	2年男(4) 他17人 **21人**	2年男(2) 1年男(1) **3人**	2年男(1) 1年男(2) **3人**	2年男(2) 1年男(1) **3人**	2年男(2) 1年男(1) 他8人 **11人**	8年男(1) 8年女(1) 7年女(1) 5年男(1) **4人**	8年男(1) 8年女(1) 7年女(1) 5年男(1) **4人**	8年男(1) 8年女(1) 7年男(2) 7年女(1) 5年男(1) **6人**	お休み （感染症蔓延）

【出典】いずローカルクラブ参加者一覧（社会教育課）

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度で2年目の試行となった「いずローカルクラブ」は、今後子ども達が希望する活動を継続して行う場の確保に向けた体制構築・クラブのニーズ等を把握するために行った。

これは、今後学校部活動の維持が更に困難となる前に、子ども達が希望する活動の場を維持するため「新たな場を創出」しながら、スポーツ活動に関わり生涯にわたり学習する契機になることを目的に提案・試行したものである。

部活動は当面継続の見通し（休日の地域展開は検討に入る）のため、部活動のない日時に誰でも参加可能な形式とし、各機関の理解を得て実施でき、参加者の満足度は高かった。

しかし、クラブの概要・日程等の告知時には既に別の予定があり参加できない等の声もあり、人数は少数に留まった。

●成果の評価

○参加者上限は20人／回としたが、平均参加人数は6人と少数だった。

○参加者アンケート結果ではいずれも満足度は高く、もっと多くの人に参加してほしかったという意見ももらえ好評だった。

○内容は事前に対象校の全校生徒にアンケートを行い、部活動にない活動をベースに自由意見も聴取し決定した。メニューは「ネット型スポーツ（バドミントン、ソフトサッカー、ソフトバレーボール）」を行い、体験の機会は少ないコンテンツで参加者にも好評だった。

○部活動や学校活動にない種目を日頃関わりの少ないメンバーで行うクラブとなり、参加者から「新鮮で楽しめた」と好評だった。

●今後に向けて

○今年度も行政主体で行ったが、今後継続可能なクラブ運営のため、運営主体や自活可能な事業規模（財源・運営）の検討・調整を行っていく。

○参加者数は、想定（上限20人程度）をかなり下回った。来年度は「部活体験会」や「参観日や保護者が参加するイベント」等で体験コーナーを設置し積極的に告知していく。

○子ども達が希望する場を継続して行う場づくりのため、運営主体・指導者の発掘等を各機関と連携しながら、実現の可能性を探っていく。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

【概要】
実 施 日　令和7年12月18日（木）～令和8年1月20日（火）郵送含む
参加者数　90人（延べ・途中から参加等全て集計）
　　※在籍者（スポーツのみ：19人、文化のみ：5人　両方：1人）
会　　場　伊豆中学校（アリーナ、ミーティングルーム）
　　土肥小中一貫校（体育館、海晴ホール）
回 答 数　スポーツ17人／19人、文化4人／5人

1、参加のきっかけ、理由を教えてください（複数選択可）

ア　おもしろそうだったから　18人(60%)
イ　友達から誘われたから　3人(10%)
ウ　親に勧められたから　3人(10%)
エ　部活とは違う競技ができそうだったから　3人(10%)
オ　新しいことを体験できそうだったから　2人(7%)
カ　その他（昨年も参加したから）1人(3%)

2．クラブの満足度は？

メニュー		大変満足	満足	不満	大変不満	不参加	合計
スポーツ	ミニテニス	6	4	0	0	1	11
	ソフトバレー	4	3	0	0	2	9
	ソフトなサッカー	4	1	1	0	3	9
	バドミントン	10	2	0	0	4	16
文化	生成AI	2	0	0	0	1	3
	eスポーツ	0	0	0	0	3	3
	プログラミング	3	1	0	0	0	4

4．来年度も開催される場合、参加しますか？

	したい	したくない	わからない	合計
スポーツ	9	0	8	17
文化	2	0	2	4

【出典】いずローカルクラブ参加者アンケート結果（社会教育課）

●参加者/関係者の声

3．感想・ご意見等

・もっと他の競技もしてみたいです
・教え方が丁寧でわかりやすかった
・楽しかったけど時間が足りなくてすぐ終わってしまった。来年もぜひ開催してほしい。
・部活とは違った色々な競技ができたので、とても良い経験でした。（部活もいいですが、たくさんのスポーツを知ってもらいたい）
・お兄ちゃん（5年生）で下の子（1年生）なのですが、見学していてやってみたかったと言っていました。（土肥）
・初めての取り組みで参加者が少なかったように思うので、来年は参加者がもう少し増えたらにぎやかでいいなと思いました
・自分が苦手な競技でも上手にできるようになりました
・教える人もおもしろかったです　また来年も参加したいです

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【伊豆中学校：ライフキネティック】
脳と体を使った準備運動・アイスブレイク



【土肥小中一貫校：ソフトバレーボール】
2人組で移動しながらのパス練習

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年		令和7年			令和8年
協議会設置、検討開始	▶ 受け皿団体や指導者・拠点校の検討	▶ 対象校との調整	▶ 生徒、保護者への説明	▶ 地域クラブ活動の試行	▶ 地域クラブ活動の検証・充実

●ステークホルダー

学校、NPO法人伊豆市スポーツ協会、加盟団体、市教委

●経過

令和5年度より検討委員会を設置し、各団体代表から現場の意見・要望等を共有するとともに、今後の部活動の在り方を協議した。

令和6～7年度は、合同部活動や部活動指導員の任用によって、部活動を行いながら、将来的に生徒が希望する活動を継続して行う場を提供できる体制の構築に向けたクラブ活動を創設・試行を行った。

●実施内容、工夫した点 等

○ 生徒が希望する活動の場を、部活動以外の種目で活動日時を避け試行・検証した。市内中学校・義務教育学校の全校生徒を対象に行った。

○ 運営は、当市のIT事業に関わり子ども達の特徴を把握している事業者に運営を委託し企画・実施を行った。

○ 学校体育施設を活用し生徒が参加しやすい活動の場を提供した。

●実施にあたって生じた課題

○ 生徒が希望する活動は何か明確でなかったため、モデル校の全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、メニューを決定した。

○ クラブの運営主体・指導者等をコーディネートする役割を担う団体や人材が現時点で依頼できなかったため、行政（社会教育課）主体で企画・実施した。

●今後の展開

○ クラブ終了後、参加者と対象校の全生徒を対象にアンケートを実施し、満足度・要望・「いずローカルクラブ」の認知度・より参加しやすい日時等について調査・分析し、令和8年度により良い体制で運営できるよう、検討委員会に提案し協議・実施していく。

○ 現在活動している部活動で、もっと活動したいクラブや指導者等の要望について、検討委員会等で聴き取りつつ、いずローカルクラブでの活動に繋がるクラブの可能性についても検討していく。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

伊豆市が目指すスポーツ活動・文化活動の見通しと3つのステージ

◎少子化の中でも、**子どもの『やりたい』を叶えられる**体制づくり

- 当面部活動は維持しつつ、子どもが希望する活動を継続して行える場を検討・試行
- 多様な場は、部活動が果たしてきた「教育的効果や居場所としての役割」を継承しながら、生涯学習推進にも効果をもたらす環境として整備
- 地域の人や団体等の組織等と連携し、持続可能な運営を目指す

ステージⅠ（令和6年）

- 夏の新チームより伊豆市合同部活動として再編
- 伊豆中学校開校時には現修善寺中の部活動を開設
- 部活動指導員の導入（教職員の兼職兼業も）
- 中伊豆中にて「いずローカルクラブ」試行

ステージⅡ（令和7年～令和9年）

- 学校部活動、いずローカルクラブの併存
- 選択肢の拡大①～③
  - ①学校部活動
  - ②いずローカルクラブ
  - ③クラブチーム
- 休日の地域展開について検討

ステージⅢ（令和10年～）完成

- 興味を持ったスポーツ活動や文化活動に各々が期待するレベルで取り組む
- 選択肢の充実①～③
  - ①学校部活動
  - ②いずローカルクラブ
  - ③クラブチーム
- 可能なものから休日の地域展開の実施